

岡村

O.B 会報

目 次

- チーフリーダーのあいさつ 1ページ (宮崎敏夫)
- 40周年基本方針及び活動方針 2ページ
- 40周年伊弉諾神社の歴史 } 4ページ
- 新OB住所 }
- 報告書 5ページ (西教員)
- 報告No2 7ページ
(報告No2作成委員会 共)
- 上高地サマースタ 7ページ
サマースタ重校会
- OB係 10ページ (千原房)

拝啓

初夏の好しき感じの今日、この頃O.B.の方々は増え仕事に勉学に御口のみのこい存じませ。我々部員一同も10数名の新人を向て元氣に山行をかこめておりました。

ところで伊那松本山岳部も冬以来、3ヶ月の歳取及々の反省を経て2時間その距離を有するハンデキャップを克服しつつあり、不都合なき程度に24時間程の行軍を見せ、そのが部員各自の内に浸透してまいりました。

このころ一応伊那松本の統合に伴う諸々の問題は1段階は済ませたが、昨夏剣岳での長野山岳部遭難以後本格的に動き始め、SAの強化は、大学教養課程統合の決定に伴って増大する問題となり、現在はSAとしての話し合い(遭難対策等)が急務と見られておる。

新人合宿、SA.Cの合宿、取次始めの整理、etc.などによって今年度のO.B.通信が遅く出たのは、これをあきらめずからこの遅くもあつた、何分よろしく御諒水下さい。

昭和49年度の本山合宿は3月6日～3月29日で計画通り日程を背負い(北谷尾根未舗→西穂高岳の健走と横尾尾根を1極度低でのりかへ)一応成功はした。天候も悪く水もたつたが積雪状態がかなり良かったので成功の要因はたと思われ、本合宿その自体はO.B.の方々の問題より反省するべきが、あつたがとにかく計画と遂行が果敢とあつた。この合宿で得た経験は今年度の山行の土台として各回部員が活動の力を与えていきたいと思います。

敬 具

40年度「基本方針」の活動方針

以下の基本方針のリーディングで本会村の総合で可成り小まかに

「下才」に「若さ」と「大学山岳部」は何を知り如何の活動すべきか？
 社会的意義は何か？ 遭難対策は如何にすべきか？ 登山の本質は
 アルピニズムの？ 登山を如何に活動を通じて進歩し、お互いにコミ
 ユニケーションを活動中に行い、各自の若さの範囲を広く知り、理解
 を深めて、積極的かつ能率的な活動をするのを目標としています。
 また、前活動は山行だけでなく団体（カケル）としての山行外活動
 があり、その山行その山行外と同様に取り組んで社会人として、学生
 としての自覚を養うべきと考えています。

山行面では、3年毎の取り入れの山行人数の増加による部員各自の
 意欲的、自主的な計画に基く山行を中心として、計画的計画を組
 んで行います。そのためには山岳部、総会に基く技術指導要項を成立
 化し、上級生への指導統一を計画的に行っています。

一年間の活動の中心の中核として、山行、登山、スキーを目標として、その
 の基礎技術と知識を修得し、そのために奮闘します。そして、最低級線
 の山行は以下の通りです。

- ① 5月 新人合宿 20%~5% 登山訓練、カケルワーク（後）
- ② 6月 SAAC山岳部 20%~5% SAAC向遊（伊波）
- ③ 夏休み中 10日以上連続 体力養成、カケルワーク（一連）
- ④ 秋（10月） 若さの1週間（場所未定）
- ⑤ 秋（11月） 登山訓練（20%）カケル、カケル技術、
乗鞍の予選
- ⑥ 冬休み中 カケル中心の山行（15%前後）（場所未定）
- ⑦ 春休み中 カケル中心の山行（20%前後）（カケル）

以上の山行の他に報告NO2の発行、登山問題の解決、登山者の
 教育課程統合に伴うSAAC向遊（一年生への指導、遭難対策、海外
 登山等）、日本山岳会関係等、関係機関との交流等も行うとして
 山行外活動も基本方針として行われ予定で、既に活動が始ま
 っています。

又新入部員の子育てに力を入れ、13名で23年まで教員が少く（教員が取
 り代わることが多い）4年生以上の部員が大人に活動出来る
 状態にまで育て上げたいと考えています。

甲は是れ以前が先達の指導管理の作制に我々の力の不足
で可成りO.Bの方々の経験と下への吸収が少くあり得たのでO.B
の方々に可成り以上の御指導と御援助を敢てお願いする。

此の御指導と御援助は我々の力不足を補うに
可成り必要であり、我々の経験と下への吸収が
少くあり得たのでO.Bの方々に可成り以上の
御指導と御援助を敢てお願いする。

40年度伊予縣本山岳町役員

チーフリーダー	宮崎 敏彦 (農林4年) (山岳部4年)
サブリーダー	小川 勝 (文藝12年) (山岳部4年)
サブリーダー	新谷 剛 (運轉 1年) (山岳部4年)
サブリーダー	柳 政 彦 (農林 3年) (山岳部4年)
装備係	甲野 洋 (農林 3年)
装備係	井上 純樹 (運轉 2年)
記録係	中村 康文 (概論 4年)
記録係	西 政 多 兼 任
会計係	甲 二 次 府 兼 任
会計係	教 範 一 (農林 2年)
新人係	小川 勝 兼 任
図書係	平 野 亮 (農林 3年) (山岳部 5年)
図書係	西 野 光 昭 (運轉 3年) (山岳部 1年)
倉庫係	福永 正 昭 (農林 2年) (山岳部 3年)

以上

新OB住所

池田直弥	山形県酒田市中町21
松尾真人	名白屋字 那知区 山形市 1-18 川口副専本館春
植谷真人	北海道札幌市大町1条6丁目 加等夢田
柴田武明	長野県上田市
川崎誠	群馬県群馬市宮城野大字柏倉 道外研習所

与氏名有打・住所住所録心故往安送致1町
音讀名簿と同様。

部室問題

O. Bの指称方も御存知の如く、現在、我部にはおきして、毎日部員が集まってタバコや又、茶備や図書類、記録類の保管場所の部室が与らぬ様に部員間の横のつながりが、とて可成り粗に与らちで又O. Bの方が来ぬて、部の方へ飲みに来て頂く事も来ず、……と云ふ所での部活動が満足に出来ない状態です。

その結果、当然のことながら部活動全体に色々の障害が出ています。

この指称部室要求の声は、以て赤らされてあり、学校側にも再度、交渉してまいりました。残念ながら部室のまま見直しは各委員の中で、この際、自らの手で与らぬと都合を一つおもうように割りました。

一方伊予松本山岳部の方で早くO. B信大として考へた時、来司おのり教養部が松本に統合される事が、ほんの確定的となつたため、そうなりまると毎季、各部の新入部員は全員松本上り集まつ事にあります。

この松本での新人部員指導の任務を我が部単独で、負い切る事は困難であり、又、その他、遭難対策、海外遠征等、O. B信大の要素の大きい事柄を赤らして、長野、上田の両山岳部と共に統合してやうと行おうと話が違つてあります。このため、部員の交流も頻りになり、その都合、松本側に話し合ひの場や又、宿泊所等の用を与る部室が与らぬため、我常に不便を感じてあります。

以上の様子を理由で、今後にも部室が欲しい訳りなのですが、先日、文理学部長の池田教授と話し合ひた際、もし文理学部内に設けるとするならば、基礎工事の件も入道園有地の中での困難さが、基礎工事等の件は、自由なフレキシブルの枠組みの事を話し合ひたい事として、

この条件に考え合ひできると、最近工事現場等で使用されている、ポリハフ
の飯場が最適と思ふ所だ。新品を講入するの月費のほうを詰めて貰う
と、この中が有る日申し分ないと思ふ所だ。池田教授もその方の
今取らなくて又理内に入れて貰ふの事で、去来の所相当大きな
があの日、倉庫も兼ねる下之儀の方がお求めと思ふ所だ。

そこで皆様方にお勧めしたいと思ふので、建築関係の仕事に
おられる方は、皆様方一人一人に去来(限)の「行」を探ら
せて、部屋の実況を可能とものにて取らば、部屋一同より、宣
いにお勧め致します。

尚、中古、私の下町の費用や又、運搬の費用として、現在5万円程
取らば、何となくお求め、何か御用件は、存じますが、
どうかよろしくお勧め致します。

見直し、着きまは、下記へ御連絡下さい。

長野県伊那市西町伊那部 5585

三伏明男方

西政 学

報告 No2 について

「報告 No1」を登刊してから数ヶ月を経ました。現在「報告 No2」を出すべく準備を進めております。以下その現状をお知らせ致します。

昨年(1964年)の5月当時監督3名の小谷と委員長に、小川、宮崎、等で報告作成委員会が結成されその委員会の下で京橋集め、資料の整理等、登刊への努力が続けられてきました。しかし京橋集めの集まりが思ったより遅く、色々の条件が重なり合って、年内(1964年)登刊には至りませんでした。

以後1965年が過ぎるに及び、私本側の上級部員の減少、加之本論との交渉、新人部員の育成等、私本部員が別荘とやらに、更に小谷委員長の公私にわたる別荘等の理由で、報告作成の仕事が伊那の方へ移すことになり、伊那の新、去島、真野、平、等を中心として準備を進めています。

この「報告 No2」の中心テーマとしては、36年を以ての釣の動向(伊那、私本の合併問題を含む)、更に36年を以ての山行記録の2つを柱としたいと考えております。しかし、現在京橋は70%程度集まったのみで、残り30%はまだ未提出の状態です。執筆をお終ひした O.B.諸氏に勧められるには、別荘等とは存じますが、何卒山岳部発展の御努力をお願ひ致します。そして現役部員の意向としては、2月本後に登刊を目標としておりますので京橋が集まり終ると、具体的な編集に仲々取り掛かるため是非とも早急にお送り下さうお願ひ致します。現在のところ、O.B.アット整理と京橋に一通り目を通すことを行っておりますが(6月に入ってからは、内容の検討、京橋の整理等)をやめて行く予定です。

「報告No2」の進行状況は以上の通りで細かい内容についてはまだですが、今後は本稿集めと平行して具体的に内容の検討に入りまので、O.B諸氏におかれまして是非とも本稿の執筆、その他の御協力とごにかたがてお返しの致します

その「報告No2」と同じく、ご意見希望等^又見本
のせぬ本稿等が来たらとしまして山岳部宛^宛御送り下
さして希望しています

サマー・テニスコングレガシオン

例年のごとく今年も上高地・小梨平へテニスを張ります。
期日は7月13日～18日です。みずさくおみやげの
上で刀敷街参加の申し込みです。

疑問の点があれば松本市県庁信天文理学部、伊那
松本山岳研究所、長岡へお問い合わせください。

〇. B 係刊 石 敬 々

其 〇. B 会 報 の 以 下 に 送 出 せ ば 可 可 取 扱 可
引 取 扱 可 〇. B 会 報 日 刊 〇. B 会 報 日 刊 〇. B 会 報 日 刊
〇. B 会 報 日 刊 〇. B 会 報 日 刊 〇. B 会 報 日 刊
〇. B 会 報 日 刊 〇. B 会 報 日 刊 〇. B 会 報 日 刊

宛 先 ; 長 野 県 伊 豆 市 外 信 大 農 学 部
伊 豆 山 岳 部 〇. B 係
千 野 房

SIMAC

昭和40年5月發行
執筆者：岩崎敏彦、西牧淳、新幸夫、子邦彦
編集者：子邦彦
發行人：信州大学印刷本館
印刷所：信州大学の高等科事務室

非売品